

# 神山神社だより

平成 25 年 4 月  
9 号

## ■ 祭りに生かされて

氏子の皆様方におかれましては新年度を迎へ何かと忙しい毎日をお過ごしのことと思います。今年も例年の如くお祭りの準備を進める時期に近づいてまいりませぬ、当番地区の地域の方、宜しくお願ひ申し上げます。

時間の過ぎるものは早いものでついこの間、新年を迎えたのもう四月になってしまいました、一月には元旦祭、還暦奉告祭、厄除け祈願祭、二月には交通安全祈願祭、天神神社例祭、三月には春祭りを斎行し多くの関係者の方にお参りいただきました。また、その間、一般のお祓いにも足を運んでいただき例年に増して賑々しく出来ました事、感謝申し上げます。

人の一生は長くもあり短くもあり、生まれる前から親の庇護の元、神社で安産祈願、生まれてから初宮参り、元気に成長したことの七五三参り、...大人の仲間入りを祝う成人報告祭、災厄をはらう厄除け祈願祭...人生一区切りに達した祝い還暦奉告祭...と祭事があります。

これを  
人生儀  
礼とい  
つて節  
目のお  
祭りと

して古くから神社で行われていました。また、地域のつながり、見えないもの(神)への感謝を表すものとして元旦祭、春祭り、夏祭り、秋祭りがあります。私たちは日常の中では当たり前と感じているので特別なことと思いませんが、祭りを行うとき、神と人との関わりを感じて一生を過ごしているんだと改めて知らされませぬ。

## ■ 奉納の報告

本年も平成二十五年還暦者 四十二歳厄年 三十三才厄年 と新年三箇日に奉告祭、祈願祭を執り行いました。その際、奉納金が献上されましたのでご報告申し上げます。

還暦者一同(四十九名)

金四十六万円

四十二歳厄年一同(二十四名)

金二十四万円

三十三才厄年一同(九名)

金四万五千元

※神社に奉納者名簿記載

奉納者の方々から献上されました、奉納金につきましては、神山神社への道路案内板、並びに境内設置の「神山神社祭神」説明看板の費用に流用させていただきました。ありがとうございます。

## ■ 新春伊勢神宮参拝旅行

一月十八日・十九日と神宮参拝旅行に出掛けてまいりました。田瀬・下野・高山合同で 福岡は六十三名 と若干昨年より人数は減りましたが、今年も楽しく旅行に行くことが出来ました。昨年までと違うことは、今年が式年遷宮の年である為、伊勢の街中、おかげ横丁、お払い町の賑わいはいつもの年とはずいぶんと違い、人も非常に多く観られ、また、外宮の新しい施設の遷宮館に行き、遷宮の歴史、実物大の御正殿(レプリカ)を拝見し、日本の文化の素晴らしさを感じることが出来ました。

まだ行かれていない方は、ぜひ、伊勢神宮へ出掛けてはいかがでしょうか。心洗われる非日常を過ごすことが出来ると思います。

伊勢神宮参拝旅行では、長年、旅行に参加された方を対象に表彰を行っております。

今年の表彰者は

十年表彰 深谷克己殿・長瀬昌俊殿  
西尾多門殿  
三十年表彰 伊藤唯男殿・杉江八郎殿  
表彰として神社庁より賞状と国旗、神社より金一封をお送りしました。

## ■ 天神神社祭典

神山神社に併設する天神神社で二月二十二日例祭を執り行いました。祭神である学業の神様、菅原道真公を祀る祭りで、併せて、小学校の児童達による書の奉納を行う祭りです。

毎年、多くの小学生に参加してもらいますが、今年も例年になく多くの子供達が参加し、社務所がいっぱいになりました。昨年までは六十名ほどでしたが今年も八十四名で、一人一人が真剣に筆と格闘しながら書いた、その参加作品は総合事務所内のほつとサロンに三月いっぱい掲示させていただきました。なお、優秀作品は神社境内のお神楽殿に一年間、掲示いたします。

## ■ 春祭り

三月三日(日) 桃の節句の日に区長、市議員、区会議員、町内会長、各会代表の方をお招きして、春祭りを執り行いました。春の祭りは祭りの原点である稲作

の豊作を願う、祈願祭です。見えないもの（神）に恵みを願い、豊かな生活を願うは人の性ではありますが、その全ては、将来に対する不安、思ったとおり行くのかと言う疑問が、祭りを継続、神社を護持させているのだと思います。誰しもが満足いく生活をすれば、何も頼ることなく望むこともなく、神社と云う場所、祭り、が衰退していることでしょう。

前述で「祭りに生かされて」とお話を書きましたとおりの私達の一生は、人と人との関りから神社（神の仲立ち）と云う場所、祭りで、無意識に豊かな精神性を得られているということを知っていただきたいと思います。

### ■ 東日本大震災復興祈願祭

（この神社だよりを作成後となりますが）三月十九日に氏子会館にて「祖霊舎合同御霊祭り」並びに本殿前にて「復興祈願祭」を執り行いました（おこないません）。

祖霊舎での合同御霊祭りは現在、神社にてお預かりしている、御霊を慰霊するため、神職にて三月と九月の年二回行っております。この方たち（御霊）は、ご家族の方、遺族の方たちが、御霊位牌を預かる事が出来ない為、神社の祖霊舎でお預かりしている方たちです。神社ではそ

の様な方たちを慰霊している次第です。今年も東日本大震災が起きてから、二年が過ぎ三回目の神事を執り行う事となりました。復興そのものは未だに、被災した方達が満足の行く方向に進んでいません。かと言って、私達が今、出来る事と言えばこの災害によって蒙った方達の霊を慰め未来に向け、この災害の怖さ、人間の驕りにより原発事故を起こしてしまつた事を後世に伝えていく事だと思います。

### ■ 第六十二回式年遷宮

遷御（せんぎよ）の儀が十月二日内宮、十月五日外宮でしめやかに執り行われます。千三百年もの長き間、二十年毎に行われる行事です。

「式年」とは二十年に一度という定められた年限を云い、「遷宮」とは社殿を遷すことを指します。前号で、なぜ二十一年に一回執り行われるかを伝えましたが、補足しておきます。前号では技術の伝承、と云うことで二十年に一度と、伝えました。それは近年になってからの考え方です。古くは稲（乾した飯）の備蓄が二十年間で来たそうです。その事から清浄を保つために米蔵を二十年に一度立て替えた訳です。神社本殿を見て分かるようにその建築様式は高床式で

弥生時代の米蔵も高床式であることからその説が一番有力なようです。神話の中に「天孫降臨」の件があります。天の神が地上界に降りてきたときに稲穂をこの地上界に遣わされました。これにより、この国が繁栄し、神との関わりが生まれたと考えれば自然ではないでしょうか。

まもなく、式年遷宮が行われます、千三百年も前から続けてきた、日本の文化伝統に敬意を表したいと思います。

### ■ その他

皆さんは知っているでしょうか。この日本と云う国が世界の中で一番長い歴史を持つ国だということ。

毎年二月十一日が建国記念日の祭日であると云うことぐらいではないでしょうか。

「日本書紀」により伝えられた建国より本年まで、二千六百七十三年経っているそうです。事実かどうか定かではありませんが、天皇制が敷かれてからです。ほぼ近いと言わざる得ません。二千年以上国家を営んでいる国は、世界中見渡してもこの日本だけです。武家の社会でも、戦は権力闘争の戦いであり、天皇制を否定し国家を転覆させるもの

ではありませんでした。それは天皇が国民を支え、国民が天皇を守るという構図に他なりません。それ故、大東亜戦争に負けても国家そのものが滅びなかつたのは天皇と国民の関係が比類なきものであつたからだだと思います。

次に長い歴史を持つデンマークでさえ千数十年だそうです。よく中国四千年の歴史と言いますが国家としての中華人民共和国は六十年でしかなく、それまでは中華民国、その前が清国であつて常に国家が滅び変わっているのです。

今、尖閣諸島の問題、竹島の問題が隣国とありますが、国の単位を国家として考えれば「何百年前に、この島は私達が統治していた」と言う話はおかしな話ではないでしょうか。日本として常に毅然たる態度で、問題に対処してもらいたいです。

### ▼ 神山神社意見メール

皆様方からの神社に対する意見、質問、をメールにて受け付けております。今後の神社活動に役立てたいと思っておりますので、ご利用いただきたいと思っております。

Email : [mdinfo@mdworks.jp](mailto:mdinfo@mdworks.jp)